

おしゃべりカフェ「台風について話そう！」結果概要

～台風 15 号及び 19 号による被災対応～

【子どもたちへの緊急・復興支援】緊急下の子どもたちの心のケア

『台風について話そう！』

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレンの協力により、台風被災後の子どものメンタルや防災をテーマに実施しました。

■日時

令和元年 10 月 18 日（金） 10：30～12：20

■場所

館山市元気な広場 方式：おしゃべりカフェ

■参加者

元気な広場利用者 親子（10 組 23 名）

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレンスタッフ

千葉県災害派遣精神医療チームスタッフ

館山市元気な広場

館山市こども課



■進行

10：30～11：00	参加者及びスタッフ 自己紹介 ①子どもの年齢 ②住んでいる地区 ③台風のこと
11：00～11：20	ディスカッション テーマ：台風について話そう！
11：20～11：40	他の被災地での子どもたちの心のケアの対応状況紹介 セーブ・ザ・チルドレンから写真数枚提示あり
11：40～	個別相談
12：20	終了

■台風を経験した参加者の状況やご意見

- ・台風 15 号の時に出産した。陣痛がきてしまい助産所で生んだ。停電もあり大変だった。妊婦だったので、水を運ぶことが大変だった。
- ・スーパーに行っても食べ物がなく、不安になった。
- ・子どもの食事が足りなくなったらどうしようという不安が常にあった。
- ・被災後、子どもの食べ物が心配で、コミセンで配布していたものをもらいに行った。
- ・停電がとても困った。携帯電話の充電ができなかったことが一番困った。携帯電話がつかないと不安。
- ・台風 15 号の後はとても暑い日が続き、停電していたので辛かった。
- ・台風 15 号では、瓦が飛び、雨漏りもして家の中がびしょびしょになってしまった。停電が 1 週間も続き、とても大変だった。
- ・幼稚園の子が、親が心配になるような行動を繰り返す。どうしたらいいか不安。
- ・被災後、子どもの食べ物の好みが変わった。
- ・風が強く吹くと子どもが怖がる。
- ・1 歳半の双子を抱え、避難所へ行くことは難しかったので行かなかった。その日は家で過ごした。今後の台風を考えると不安で心配。
- ・安全安心メールを登録していなかったため、情報がなく困った。
- ・元気な広場が開館していることを知らなかった。情報が届かない。メール×、防災無線×（聞こえない）。
- ・台風 15 号のときに祖母の家にしたため、南房総市の避難所へ避難した。3 日間避難所で過ごした。避難所は停電していなかったため涼しかったため、いることができた。子どもも泣かなかったのがよかったが、食べ物がなくお菓子を与えていた。




セーブ・ザ・チルドレンからのアドバイス

- ・子どもが災害の遊びを行っている場合は否定しない。子どもは遊ぶことで不安等をかき消すことができるので、とても大切なことである。おとなも子どもと一緒に遊ぶくらいがいい。
- ・被災後、心の傷が子どもの行動に出てくる。おとなは、一緒に遊ぶなど、子どもが発散できるように見守る。

■台風19号における避難所への避難について

避難所に行った方が良いと思っただけに行かなかった	避難所へ行った (南総文化ホール)
8組	2組



行かなかった理由	避難所での状況
<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップで自宅を確認した結果、安全と判断したため。 周囲の家族が自宅の安全を強く訴えてきて、それを信用したため。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段は添い寝で母乳を与えながら夜寝かせていたので、避難所では人目もあり母乳を与えられなかった。そのため子どもが不安になり大泣きをしてしまった。避難所の職員が急遽、別室を用意してくれたので助かった。はじめから別室があれば、安心して避難所で過ごせたのに、残念。 南総文化ホールはオムツ替えのシートがトイレごとに取り付けられていないので、困った。取り付けてあるところまで人をかき分けて行くのが大変だった。うんちをしてしまい臭いが強いので、同室の人に申し訳なかった。

■今後、避難所に行くことができれば行きたい人 … 8組

■子どもがいる世帯の受け入れる避難所に必要なものは？

子どもの食べ物	オムツ	おしりふき
バスタオル	ひざ掛け	授乳ができる場所(部屋)
おむつ替えの場所		

今後の検討課題

- ・継続した子どものこころのケアのための各機関との連携方法
- ・子育て世帯の避難所の設置
- ・災害情報等を提供するツールの検討